その手の熱を重ねて 後日談

あなたの熱を感じて

富士山ひょうた

DC「その手の熱を重ねて2」2011年1月発売予定!!

凪紗が天景の部屋に来た時のポジションは

大抵こんな感じ。

ぴと。

テレビ視聴中。

誘惑の意図があるかの見極めが大変難しい。

この間は誘ってんのかと思ってベッドに連れて行ったら初めての時よりウブな反応されたしなぁ

くちびるに蝶の貝～バタフライ・ルージュ～ 番外編

SWEET OR SWEET

崎谷はるひ

ホストクラブ『バタフライ・キス』のオーナーであり、かつては超人気ホストとして鳴らした源氏名『王将』こと、柴主将嗣の思考回路を読み取れる人間はひどくすくない。

将嗣とは十数年のつきあいがあり、一応は恋人である柳島千晶も、彼がなにを考えているのかについては、正直わからない。というより、将嗣を身近に知る人間のなかで、もっとも彼を理解していないのは自分ではなかろうか、と思うことすらある。

なにしろ将嗣はめったなことでは本音を見せない、語らない。

端整な顔に貼りつけている表情は、大抵はひとを食ったような笑顔ばかりで、たまにぽろりと漏らした言葉も、どこまで本気かわからない。

おまけにときどき、突拍子もない行動に出るから、ますます理解不能になっていく。

「……なに、それ」

その日、仕事を終えた千晶が将嗣とふたりで暮らすマンションへと帰宅したとき、リビングの床に座りこんだ彼の手のなかには、なんだかちいさないきものがいた。

「なにって、犬」

「犬!?　これ犬なのか」

まだ生まれて数カ月も経たないだろうそれは、ネズミと見まごうばかりのサイズで、将嗣の大きな手のひらに載せると、片手で充分なくらいにちいさい。

「だ、だいじょうぶなのか、こんな赤ちゃんの……」

「これでも一応、乳離れはしてるらしい」

手のひらに載せた子犬の腹を、将嗣の長い指がつつく。けぷん、と満足そうに息をついた彼――オス犬なのは、怠惰にも腹を見せた仰向けのポーズのおかげですぐにわかった――のおなかはぽっこり膨らんでいて、満腹なのは見てとれた。

片膝を立て、もう片方の長い脚を床に投げ出した将嗣の近くには、ちいさいココット皿のようなエサ皿と、幼犬用のベビーフードの袋がある。

「将嗣が食べさせたのか」

「ほかに誰がいる？」

「いや、まあ、そうだけど」

千晶はまだスーツのまま、将嗣の背中越しに手元を覗きこんだ。

「サイトのほう、どうなってる？」

「あー、『ファルファッラ』の？　あらかたできてきた。ケータイ対応のコンテンツのほうがちょっと遅れ気味だけど」

いまの千晶の仕事場は、将嗣が経営している『バタフライ・キス』グループのＩＴ部門の会社だ。サイトの運営やそのほかを一手に担っている状況で、千晶の肩書きとしてはチームリーダーということになっている。

スーツ着用の義務はないけれど、会社員時代の習慣が染みついていて、出勤時はどうにもこの格好のほうが落ちつくのだ。

「とりあえず、仮サイトのほうでインフォメーションはしてってるから、おいおい情報は足していくよ」

「そうか」

色気のない会話をしつつも、将嗣の視線は子犬へと向けられたままだ。

うつらうつらしている、ちいさな犬をつんつんとつついているさまは、なんだか妙に楽しげでもある。

「で、なにそれ」

「だから犬だろ」

「犬はわかったよ。どうしたんだって訊いてんの」

将嗣は一八〇センチを軽く越える長身に、三十代なかばになってもますます垂れ流されたままの色気はすさまじく、すでにホストとしての接客からは退いたものの、同業者やら

あらすじ　ＳＥ・千晶とホストクラブオーナー・王将は恋人同士。だが王将を信じきれない千晶は逃げる度に淫らなお仕置きをされ…。